

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>



わくわく、ドキドキがいっぱいある世界に暮らす

校長 丹羽正昇

2021年も早いものであと一か月です。12月は師走ともいわれ、一説によれば、師と仰がれる人でもせわしない日々が年の瀬に向けて続くことを表しているそうです。皆様にとって、今年の12月はどのような月になりますでしょうか。何か楽しいことが起こるといいですね。私にとっては、本屋さんの絵本や児童書のコーナーを見ることがあります。そこに施されているクリスマスのディスプレイを見ていると、なんだかわくわくします。しかも、この時期にプレゼントとして本を購入すると、クリスマスプレゼント用の包装紙とリボンのせいなのか、本がまるで特別なおしゃれでもしているかのように見えます。

さて、今月も読書に関する話。みなさんは、谷矢部に佐藤さとるさんが住んでいらっしゃることはご存じだったでしょうか。佐藤さとるさんは、コロボックル物語で有名な児童文学作家です。1959年に私家版として出版された「コロボックル物語① だれも知らない小さな国」は、本格的なファンタジーとして高く評価されました。コロボックル物語は、全6巻のシリーズとして、いまでも多くの子どもたちに読み継がれています。

佐藤さとるさんによると、コロボックル物語は、出生地である横須賀や小学校5年生のときに引っ越してきた谷矢部の地に影響を受けて構想されたものだそうです。当時は、いずれも家の近くに裏山があり、コロボックルたちが住んでいそうな自然豊かな場所だったようです。コロボックル物語を読み、谷矢部を訪れてみると、ファンタジーの入り口が見つかるかもしれませんよ。

ここで、作家になる前の佐藤さとるさんを少しご紹介しましょう。1928年に横須賀で生まれ、1938年小学校5年生の時に、まだ鎌倉の一部だった現在の戸塚区に引っ越してきました。1940年旧制横浜第三中学校（現在の県立横浜緑ヶ丘高校）に進学し、1949年に関東学院大学工学部を卒業しています。その後は、横浜市役所に就職しますが、新制中学校の教師が足りないということで、横浜市立原中学校の数学の教師になりました。

このような佐藤さとるさんのプロフィールは、私自身が横浜の教師になってから知りました。私が興奮したのは、佐藤さんが戸塚の谷矢部に暮らしていたことや横浜市立の学校の教師だったこともそうなのですが、隣の学区の学校に勤める機会を得たことにあります。佐藤さとるさんという偉大な方が、急に身近な存在になったという思いでした。幼少期に読んだ大好きな物語の作者が、実は、すぐ近くにいらっしゃった。村上勉さんの挿絵のコロボックルたちに、本当に会えるのではないかと。ひぐみに着任したとき、いい年をして、わくわくが止まらない思いでした。

それにしても、佐藤さんの描く物語は、どうして大人でもわくわくするのでしょうか。それに関しては、ご本人があるインタビューで語っている言葉があります。「ファンタジー（書くに）は、やっぱり作者（自身）がびっくりしないといけない。書いていて『すごいな』と思った内容は、読者も驚く。」ここから伝わってくるのは、わくわくドキドキしながら物語を創作している佐藤さんの嬉しそうなお姿です。大人になっても子どもの心を忘れずに、わくわく、ドキドキしながら毎日楽しく過ごすためには何が必要なかを教えていると、私は思います。

物語を読み、いつか想像の世界で遊んでみたり、科学読み物を読み、新たな知識を得たりする。そこには、心躍るわくわく、ドキドキする出来事が待っている気がします。大人にとっても子どもにとっても、身近にある一冊の良質な本の中にこそ、人生を楽しむヒントがあるのかもしれない。

※佐藤さとるさんは、踊場を舞台にした「ねこのぼんおどり」という民話も書いています。